

スケッチで綴る世界の旅



私は、応用物理学の研究者です。下の世界地図に赤丸で示す都市で開催された国際研究集会に参加してきました。国内・海外を問わず、旅行の時はいつも、スケッチブックと油性のサインペン、水彩絵の具セット、筆洗・水をもって行きます。

写真を撮るのと違って、最低でも 20 分、一カ所にとどまって観察するので、たとえば建物のディテール

なども、きちんと記憶されます。何より、地元の方々との温かいふれあいがあることが、スケッチの楽しみでもあります。たとえば、エジンバラでスケッチしていたとき、終わった後コインをおいていく方々がたくさんおられました。パチカンでは、二重三重に人々に取り囲まれ、終わった後は、拍手や握手で賞賛を受けました。講演では、ヨーロッパ、中東、アジア、オーストラリア、米国、ベネズエラのスケッチを、エピソードを交えながら紹介しました。ここでは、そのうち、最近のスケッチを紹介します。

1. 美しい北欧の町

スウェーデンのストックホルムは水の都です。王宮のある島を中心に広がる旧市街 Gamla Stan の街並みは歴史を感じさせます。図 2 は、係留してユースホステルとして利用している帆船 Af Chapman 号です。



図 1 ストックホルム旧市街 (ガムラスタン)



図 2 帆船のユースホステル (アフ・チャプマン号)

図 3 はストックホルム港の波止場です。丁度夏至の頃だったので、夜の 8 時半くらいでもこんなに明るい夕景色でした。図 4 は王宮裏から、Östermalm 方面を描いたものです。



図 3 ストックホルム港の波止場



図 4 王宮裏からエスターマルム方面を望む

これらの 4 点のスケッチをもとに油絵を描きました。図 1 の風景は 100 号の大作となって上野の都美術館で開催された日府展に展示しました。

2. ヨーロッパといえばやはりパリ

パリ、シャルル・ドゴール空港は、ヨーロッパの玄関口です。そのため、パリに泊まることも多く、100枚を超えるスケッチがあります。中には、乗り継ぎ時間を利用して描いたものもあります。ここには、おなじみの風景のスケッチを集めました。

図5は、セーヌ川の船着き場から見たエッフェル塔、図6はパンテオンからのエッフェル塔遠望です。そして図7は、エトワール広場に立つご存じ凱旋門です。たまたま旗日だったので大きな三色旗が見えます。図8は、シャンゼリゼ通り、賑やかなざわめきが聞こえるようです。図9はチュイルリー庭園の池、遠景はルーブル美術館。図10は古来たくさんの画家が描いてきたサンマルタン運河。このほか、モンマルトルの丘に建つサクレクール寺院、そしてかわいいレストランたち。パリのすばらしさは枚挙にいとまありません。



図5 セーヌ川遊覧船の船着き場から見たエッフェル塔



図6 パンテオンからリュクサンブール庭園越しに見るエッフェル塔



図7 エトワール広場に立つ凱旋門



図8 シャンゼリゼ通りのカフェテラス



図9 チュイルリー庭園の池。遠景はルーブル美術館



図10 サンマルタン運河。手前の開門を開いて観光船が往来する

3. 東西文化の接点イスタンブール



図 11 金角湾を隔ててスレイマニエ・モスクを望む



図 12 ガラタ橋からガラタ塔を望む



図 13 ブルーモスク



図 14 アヤ・ソフィア博物館

ウクライナのクリミアで開催された機能性材料の国際会議に招待され、トルコ航空で成田からクリミアのシンフェロポリへ向かいました。途中イスタンブールでの接続時間がなんと10時間もありました。

荷物はとる必要がないので、リュックひとつで地下鉄に乗り、終点で市街電車に乗り継ぎ、終点まで行きました。そこから、空港に戻りながら7枚のスケッチをすることができました。図11は金角湾に架かるガラタ橋から、スレイマニエ・モスクの方

向を描いたスケッチです。図12はスレイマニエ・モスクの対岸にあるガラタ塔のある丘を描いたものです。図13は、有名なブルーモスク、正式名称はスルタンアフメト・モスク。世界遺産に登録されている。図14は、アヤ・ソフィア博物館。東ローマ帝国の代表的な遺構で、その歴史と威容から、オスマン帝国の時代においても第一級の格式を誇るモスクとして利用された、まさに東西文化の接点です。

図5のスケッチに基づき100号の油絵の大作を描き、今年の日府展に出品しました。図15は、日府展名古屋展での展示風景です。



図 15 日府展に出品した100号油彩「モスクのある風景」

4. オーストリア・ハンガリーの旅

今年の8月末、ザルツブルクで開催された三元多元化合物の国際会議に招待されました。ザルツブルクはモーツァルトの生誕地であり、毎年、ザルツブルク音楽祭が開催され、世界中から観光客が集まります。街の中心には丘があつて、てっぺんにホーエンザルツブルク城塞があつて、どこからも見ることができます。図16はヨゼフ・プライス通りから見たホーエンザルツブルク城塞です。この城山の中腹に立つと図17のように、旧市街のたくさんの塔が見えます。また、城塞の上からは、図18のように、旧市街、ザルツザッハ川、さらには遠方の山々が見えます。



図 16 ヨゼフ・プライス通りから見たホーエンザルツブルク城塞



図 17 ホーエンザルツブルク城塞の山腹から見た旧市街の塔たち



図 18 ホーエンザルツブルク城塞のてっぺんから見た旧市街とザルツザッハ川



図 19 ドナウ川と宮殿のある丘（ブダペスト）



図 20 ドナウに架かる鎖橋とペスト市街（ブダペスト）

ザルツブルクからの帰途、ブダペストに知人を訪ねました。歴史と伝統に彩られた美しいまちです。ブダペストとは、ドナウ川を隔てる上流社会地域のブダと商業地域のペストがくっついてできた街です。つながるのは鎖橋です。

5. おわりに

国際研究集会の旅を通じて世界各地で描いたスケッチを通して、国際的なコミュニケーションを深めることができました。サインペンと水彩絵の具とスケッチブックさえあれば、どこでもスケッチを楽しむことができます。私の場合は、絵を通してでしたが、音楽・踊り・スポーツなどを通して、世界各地の人々との温かい交流が行われることを願ってやみません。

世界のスケッチは Website <http://home.sato-gallery.com/>に多数アップしてあります。